

**代表理事 勝呂 奏 ご挨拶**

長く私達の日常生活を縛ってきた新型コロナウイルス感染症が、この5月から2類相当から5類に引き下げられた。ようやく人の行き来も集まることも自由を取り戻し、まだマスク生活は少し残るものの、私達の表情に明るさを取り戻すことができた。本財団もさまざまな制約の中で活動を続けてきたが、芹沢光治良没後30年の諸企画をこれまでのように持てるようになって嬉しい。それは本財団の会員の皆様の深切なご支援と、事務局の行き届いた運営の賜物と感謝している。

1、2喜ばれた事業を挙げるなら、まず《芹沢光治良ノート (3) 一作品『孤絶』を読んでみませんか?》の編集発行がある。サブタイトル通りの内容のもので、編集諸兄姉の工夫による、平易でいて内容の豊かな作品案内になっている。たくさんの写真の収録も嬉しい。また、《第2回“巴里に死す”講演と読書会》では、杉淵洋一氏（聖学院大学）の珍しいパリの映像紹介を交えたご講演に、大勢の人が魅入られた。

光治良没後30年に関わるものとしては、《「芹沢光治良・文子・玲子」を語る会》を企画し、櫻井信夫氏（元・新潮社）から編集担当者だけが知る貴重なエピソードを伺うことができた。出席者の多くから懐かしい思い出を引き出し、親密な交流の時を得ることになった。小学館からの『ブルジョア・結核患者』の刊行は、浅野誠司氏のご尽力のお蔭で、P+D BOOKS からは『孤絶』『サムライの末裔』に続いて3冊目になる。こうして読み継がれてゆくことに、芹沢文学の生命の確かさを知る思いがする。この刊行を記念して、芹沢文学研究の権威である鈴木吉維氏（住吉高等学校）の講演会を持ち、その歓びを参会した会員で分かち合うことができた。

全国には、組織された芹沢文学の集まりが少なくない。東京、沼津だけでなく各地にあるその活動については、本財団のホームページの紹介を見て頂きたい。それだけでなくホームページにはいろいろな内容を工夫して用意しているので、時間の許す時に一度訪問してみることをお勧めする。

最後に旧・芹沢光治良文学館の館員だった澤田角江さん、沼津の愛好会顧問で前田千寸の孫になる天野博人さんのご逝去を記し、心からのお悔やみを申し上げたい。芹沢文学の継承に尽くされたことには、どれほど感謝しても足りないように思う。

**理事 岡 寿里 ご挨拶**

早くも芹沢光治良の没後30年となりました。大勢の方がお別れにいらしてくださった事を今でも思い出します。その後も皆様に芹沢文学を愛読していただき、ありがたく存じます。

芹沢光治良は私にとっては文学者ではなく、おじいちゃまでした。私の一番昔のおじいちゃまの記憶はスイスに居たころです。二歳だったと思います。赤いベレー帽のおじいちゃまと公園を散歩した覚えがあります。私は確か茶色かオレンジ色の洋服を着ていました。次の記憶は四歳頃に帰国した時です。スイスでは現地の保育園に通っていたため、最初は主にフランス語での会話でした。それが気が付いたら日本語にかわりました。その頃のおじいちゃまから学んだ事は三点あります。一つは、規則的なスケジュールの重要性です。その中でも特におじいちゃまにとって大切だったのは早朝のラジオ体操でした。一日も休まず最後までしていました。今でも、ラジオ体操の音楽を聴くと思い出します。そして、私も一日の日課に運動を取り入れるように心掛けています。二つ目は、好奇心を保ち新しい事を学ぶ精神です。世の中で何が起きているか常に追っていました。いくつかかの新聞を配達してもらい、毎朝一、二時間かけて新聞に目を通していました。また、夜七時のNHKニュースは必ず見ていました。そして人との会話をとても大切にし、多様な考え方に興味を持っていました。そのような、おじいちゃまを見て、私も世界で何が起きているか他国に興味を持ち途上国支援の仕事を選びました。三つ目は、バランスをとった生活をする事です。おじいちゃまの場合は一日分の書き物を終えると毎晩、お食事の前にチンザノ酒をレモン汁で割って飲むのが習慣でした。そして季節により、野球か相撲をテレビで楽しんでいました。毎日時間に追われている中、私は朝の犬の散歩と親友と過ごす時間を大切にしています。

芹沢光治良が文学を通して残したものは一人一人違うと思います。私にとっては生き方の例です。どうぞ芹沢光治良文学を引き続き応援してください。

# 芹沢光治良没後30年記念 報告

## (1) 財団“マグノリアの会”主催

### 芹沢光治良没後30年記念(1) (令和5年6月11日)

#### 「光治良・文子・玲子“を語る会”

・ 講演者 櫻井信夫 (元新潮社 芹沢光治良担当者)

当日は、天気がすぐれない中、椅子が足りなくなるほどの多くの皆様(47名)を泰山木の花が迎えてくれました。

(代表理事勝呂奏より)

父光治良の文学精神を広く伝え残すために、文子、玲子さんが「サロン・マグノリア」の会を長く続けてきましたが、文子様、玲子様も亡くなられ、我々に宿題を託されて去られて行きました。お二人の意志を繋いでいく今日のような集まりの点が、これから線になって行くことを願っています。今は亡き、お三方の思い出を語り偲ぶ会になれば幸いです。

新潮社関係者(櫻井様、北村様、石川様)の皆様が、「人間の運命」「神シリーズ」出版される際のエピソードお話しくださり、皆さん、光治良先生の素晴らしさを具体的にお話しくださいました。参加者の皆様も興味深く、関心を持って聞いているのが伝わってくる会でした。

(参加者の感想より)

- ・ 素晴らしい会でした。なんとも言えない良い会でした。
- ・ 皆さんのお話が、愛に溢れて光治良先生、文子先生、玲子様に出会えた喜びを大切な宝物のようにお話なされている姿に、引き込まれました。
- ・ とても良いお話を沢山聞かせて戴有難うございました。貴重な一日でした。
- ・ 皆様それぞれの貴重なお話楽しく拝聴させて頂きました。
- ・ 私の中には光治良先生、文子さん、玲子さんのお姿はいまだにあまりにも鮮明に生きており、数々の思い出は決して忘れることはありません。それは私の青春が最も輝いていた時代でもありました。
- ・ 今日にとってはとても良き時間を有難うございました。芹沢先生に関わっている方々、本当に素晴らしいですね。
- ・ 本当に素敵なお話でした。思い出に残ります。お陰様で久しぶりに芹沢邸の空気に包まれて懐かしく嬉しかったです。
- ・ 貴重な経験をしました。感謝しています。特に、新潮社の担当者2名のお話はとても良かったです。芹沢先生は私が信じていた通り誠の作家であったと確信出来ました。(千円でクッキー+コーヒーは有難かったです。)



(櫻井信夫様)

“光治良先生・文子さん・玲子さん”笑顔で  
ご参加でしたよ。

**(2) 中野区立中野東図書館 主催**  
**芹沢光治良没後30年記念(2) (令和5年7月29日)**  
**「芹沢光治良の文学精神**  
**代表作“巴里に死す”を読む」 講演会**

・ 講演者 **勝呂奏** (芹沢光治良記念文化財団 代表理事)

昨年(2022年10月)財団代表理事勝呂奏が、中野区区制90周年記念行事として「中野区ゆかりの作家—芹沢光治良」と題して中野の皆様へ芹沢光治良を紹介した。

今年は、芹沢光治良没後30年を記念して、中野区の依頼により「芹沢光治良の文学精神—代表作“巴里に死す”を読む」と題して、中野区の皆様へ講演を行った。

井上靖や大江健三郎からの見た芹沢光治良の文学精神を紹介し、また、代表作品である「巴里に死す」の解説を行った。

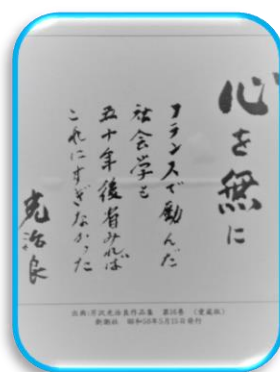
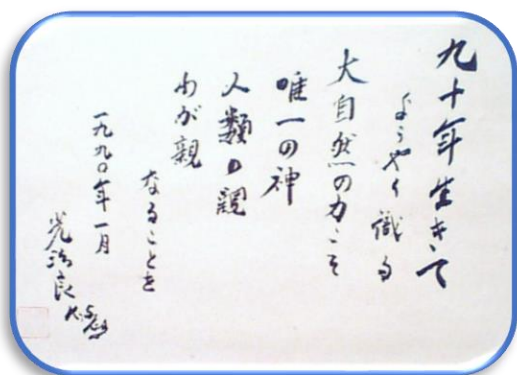
**「当日の資料より」**

- ①「第14回中野区ゆかり著作者紹介展示 芹沢光治良—中野区小滝町に暮らしたエクリバン」(2018年3月)
- ②「芹沢光治良作品集 内容見本」(1974年)
- ③「文学者の運命」(1973年6月刊)
- ④勝呂奏「あらすじで読むキリスト教文学—芹沢光治良『巴里に死す』」(2013年2月『信徒の友』)
- ⑤芹沢「あとがき」(ダヴィッド社版『巴里に死す』 1955年8月刊)
- ⑥串田孫一「解説」(角川文庫版)
- ⑦「巴里に死す」序章 第三章 第四章 第五章
- ⑧「死に行く過程のチャート」E・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間—死にゆく人々との対話』(川口正吉訳、1971年4月刊)
- ⑨『文芸用語の基礎知識—88五訂増補版』(1988年11月「国文学解釈と鑑賞」臨時増刊)
- ⑩「まこと」(『天理教経典』 1999年5月刊 77版)
- ⑪ 遠藤周作「解説」(『芹沢光治良自選作品集』第一巻 1957年4月刊)
- ⑫『巴里に死す』終章
- ⑬[附録]芹沢光治良・石坂洋次郎・河盛好蔵(司会)「日本文学の海外進出」(1955年1月「文学界」)



(勝呂奏様)

**【光治良先生の色紙】**



### (3)財団“マグノリアの会”主催

芹沢光治良没後30年記念(3) (令和5年12月17日)

「ブルジョア・結核患者」刊行記念講演会」

講演者 鈴木吉維 (神奈川県立住吉高等学校総括教諭)

当日は、年末のお忙しいなか、多くの皆様(36名)がご参加くださいました。今年の11月に小学館様より、芹沢光治良没後30年記念として、93年前のデビュー作「ブルジョア」が出版されました。それを記念して、芹沢光治良研究者の鈴木吉維様がデビュー作品「ブルジョア」の時代背景やテーマについて詳しく講演くださいました。

後半は、小学館の浅野誠司様から「ブルジョア」出版の経緯などお話しくださいました。また、参加者の皆様からの感想やご質問がありなごやかな会となりました。

(参加者の感想より)

- ・久しぶりに芹沢文学関係の講演会に参加しました。芹沢文学の奥深さを読み解くことは感動につながります。参加して本当に良かったです。
- ・今回も楽しくまた、参考になるお話を聞かせて頂きました。ありがとうございました。
- ・『ブルジョア』の最初の『租税の大半を、軍備に奪われない国民は、仕合わせである』昭和五年の作品の時代とそれから九十三年！今の日本の政府は、四十兆円余りの防衛費！芹沢光治良先生の先見の明に、ただただ感服しております。
- ・芹沢先生の中で不倫のお話が登場するのは、最初で最後の作品だと思うのですが驚いて読みました。
- ・「ブルジョア」のテーマが、命の大切さであると思っていたのですが、鈴木先生のお話の中から確認できたので良かった。

光治良先生が亡くなられて30年たちます。93年前のデビュー作品「ブルジョア」に触れることで、光治良先生、文子先生、玲子様を参加者の皆様は身近に感じられた会だと思いました。



(鈴木吉維様)

## 芹沢文学のまわりで シリーズ(4)

野見山恵美子 芹沢光治良記念会(学芸・作品資料)担当

芹沢光治良没後30年。今年発刊された書籍の中から、光治良の著作を引用し、自身の視点(現地点)につなげ、そして先に『引き継いでくださっている』本とその箇所を紹介したいと思います。

梨木香歩氏の『歌わないキビタキ—山庭の自然誌—』(毎日新聞出版2023年9月30日刊行)というエッセイ集。

第二章中の「群れにいると見えないこと 3」(p.71)の冒頭:「先日『わだつみのこえ消えることなく』について書く機会があり、書き終わった後も暫く、その周辺から心が立ち去りかかっているところへ、読まれた編集者のKさんが、昔ご自分の手掛けた芹沢光治良全集の関連箇所がある、とその一冊を送って下さった。」その関連箇所とは、『死者との対話』のことです。

(参照 <http://bungeikan.jp/domestic/detail/413/>)

光治良の文中:「その時、君(和田稔)はあの癖のまばたきをして眼鏡のうちに涙の粒をごまかした。僕は君の涙の意味がよく分からなかった。今も分からない」を引いて、梨木氏は「それはわかる気がする。芹沢氏の誠実さや優しさは文章だけでも伝わってくるが、和田稔に関しての解釈は少し違うように思う。」と、和田稔の心情を推し量り、展開させていく(p.73~74)。

「たとえ西田哲学がどんな難解な言葉で語られたとしても、その奥に和田の求める類いの普遍の真実があれば、和田はそれを感知しただろう。彼にそれが関知できなかったということは、最初からそれはそこには「なかった」のだ。それは今和田のいる、非常時の緊張感で張り詰めた世界に耐える言葉ではなかったのだ。そのことの絶望をいつているのに、これもまた和田の

世界から遠いところにいる芹沢氏は、氏の持ち得る精一杯の誠実さでもって、まるで伝えようとする努力さえすれば、その哲学の真髓が我々にもわかるものを、とっているかのようである。だが和田稔はまったく違う次元のことをいっているのである。ことばのもつ力の、可能性の、限界の話をしているのだ。彼の涙は、自分が今いる世界が、ついこの間まで自分も属していた、芹沢氏のいる穏やかな知の世界と完全に異なってしまったことの涙であったのだという気がしてならない。そしてそのときのベルクソンのように優しく自分の娘に語りかけるような未来は自分にはもうないのだという絶望、それに気づかぬ芹沢氏の世界との懸隔。」

和田稔は人間魚雷と呼ばれた「回天」の中での最後の孤独（出撃を前に不慮の事故で亡くなる。）にあって、「彼は初めてあらゆる「群れ」の圧力から自由になれた。」(p.77)のかもしれない。

東中野駅東口そばの、自家製洋菓子・パン・喫茶「ルーブル」が地域再開発に伴い、12月下旬で閉店となった。開店から73年。芹沢家や岡家も良く利用してくださったと、店主が懐かしそうに話してくれた。東京の芹沢文学愛好会の皆様にも馴染みの店だったと聞く。

最終日のごったがえす店内では、閉店を惜しむ常連客に「今後場所を変えての再オープンの際はSMSで発信します！」との声。次の世代の店主に、懐かしい味はきっと引き継がれていくのであろう。場所や形は変わっても、その心は受け継がれ、そしてさらに発展していくのだろう。

「生命(いのち)は流浪する」「魂の佇(たたず)まいは変わらない」

前述の本の中で目にし、とても心に響いた言葉です。

## 事務局より報告

- ・芹沢光治良没後30年に刊行された「ブルジョア・結核患者」を記念に「ポストカード」を作成しました。沼津市芹沢光治良記念館、中野区立中野東図書館の来館者に配布します。皆様のお手元にお届けします。お楽しみに。(しかし、1枚だけですが・・・)
- 【会員の皆様へ、知人、友人に『ブルジョア・結核患者』のご本をお薦め願います・・・。】

### 『今後の財団の行事予定』

- ①『朗読劇』 3月頃 場所:サロン・マグノリア
- ②『光治良忌』 3月頃 場所:沼津市市営墓地
- ③『光治良ノート(4)「ブルジョア」』 5月発行

来年もよろしくお願ひします。



(ポストカード)

### 『編集後記』

今年は芹沢光治良没後30年記念企画に会員の皆様のご協力をいただき有難うございます。各会に多く方が参加くださり楽しい会となりました。感謝です。さて、来年(令和6年)は、全国都道府県に「小さな芹沢文学読書会」の種を蒔いていきたいと考えています。会員の皆様、ご協力のほどよろしくお願ひします。

### ■会員の皆様へ

- ・『聴く読書のおすすめ』(財団ホームページのオーディオライブラリーの『朗読』をお聴きください)
  - ・「巴里に死す」
  - ・「完全版人間の運命1 次郎の生い立ち」
  - ・「完全版人間の運命2 親と子」
  - ・「完全版人間の運命2 友情」
  - ・「エッセイ ころの波」
- (或る女流詩人への手紙 ・人生の秋 ・喪服を着た貴婦人)
- ・『お知り合いの方に会員になっていただくようにお誘いください』
- ・会費無料です。財団ホームページより登録できます。

発行: 一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団  
〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-3

事務局 池田 三省 メール: [serizawa.52@nifty.com](mailto:serizawa.52@nifty.com)  
財団ホームページ URL: <http://serizawa-kojiro.com>